

校友さんい

立命館大学産業社会学部校友会報

編集人 片岡雅彦

発行人 荒岡作之

発行所 産業社会学部校友会

〒603

京都市北区等持院北町56-1

電話 (075)463-1131(代表)

振替 京都3-19595



入学風景



神妙で緊張した入学式の表情

入学式がおわりラッシュ時のように

体育館から階段に溢れる新入生

厳粛な式がおわり、緊張からの解放と

大学生新一年生としての実感と喜びが

こみあげてくる。

待ちうけるようにして、新歓店出しの

先輩達の声が新入生をあたたかくむか

える

いつもながらの入学式の表情だが

これからの人生、大学生活のスタート

であり、入学するもの、迎えるものに

とっても大学は今、もっとも新鮮な活

気にあふれる時を迎えようとしている

(題字は元総長・細野武男氏)

校友スクランブル

自営・自由業編



は、何といっても人間関係が大きな部分を占めていると同時に「いいかつこ」をせず堅実なやり方できた事が結論のようです。

私も昔の夢が消えかかる年代になりました。そこは競走に明け暮れた団塊の世代、疲れも忘れて働く毎日です。高度成長期からドル危機、オイルショック、貿易摩擦等々、資本主義経済激動は一つの変革期と思われまふ。それを見る目は、母校で学んだ知識経験が大いに役立っていると痛感する今日です。

走り続けて満十年

製パン会社 常務取締役

大藤 重一 (昭和48年卒)



昨年末で、会社設立満十年が経過しました。以来、走り続けの毎日十年一日の如しです。当初の主業務が学校給食用のパン製造でしたので、安定している様に思われましたが、昨今の生徒減、食事の多様化による米飯給食の実施などでここの大企業の様に、リストラクチャーが課題となっているのが現状です。

小企業ですので、製造、営業、労務から経理まで見なければなりません。特に製品苦情の処理には悩まされています。

大資本流通業と 商売人の狭間で

佃さのや食品 取締役社長

佐野 節夫 (昭和53年卒)



次男・大(ひろし)君と

早いものでもう10年目。ゼミの同窓会をしようと相談しているのが日常の雑用で追われ、仲々皆に連絡できない。自分の不器用さを感じる今日この頃である。今、ただ商売人の長男として生まれたという理由だけで(?)漬物・味噌の製造販売及び流通を生業とし、京・河原町にも店舗を構える全国ネットの百貨店及び系列の量販店に主な取引をいただいている。

私の住む街・堺は人口約82万人を数え例外にもれず全国有数の小売業激戦地である。旧来多かった中小小売市場は半減し、大資本大規模量販店、それをとり巻くCVS群に圧倒され商業地が塗りかえられと共に、旧態然とした小売業者は瀬戸際に立たされているというのが現状であろう。その良し悪しは別として、私も流通業に身を置きながら古い堺の街の小売業地図が塗りかえられ商売人らしい商人が減って

仕事と唄が一緒に なればいいね

にいだや(雑貨小物店)

横山 作栄 (昭和47年卒)



いくということに一抹の寂しさを感じている。他の街へ行くとその土地の「台所」といわれる商業施設がある。例えば金沢の「近江町市場」、京の「錦小路」、札幌の「二条市場」等、代表的な施設であろう。昨今消費者のニーズ、ウォンツに迎合しがちな新しい商売が主流であり、商人がプライドを失いつつある風潮の中で、前出の様な商業施設を待ち望んでいるのは私だけであろうか。大資本流通業と商売人の狭間で、「ハイ、さのや食品でございます。いつもありがとございます。」と快活な電話応対を心がけている今日この頃である。

うか。大資本流通業と商売人の狭間で、「ハイ、さのや食品でございます。いつもありがとございます。」と快活な電話応対を心がけている今日この頃である。

オフシーズンは充電

㈱石原風美堂 役員

石原 一廣 (昭和45年卒)



○新潟市から、車で一時間。田んぼに囲まれた町が僕の町だ。そこで、化粧品や雑貨小物を扱う店をやっている。

○仕事柄のせい、評判になった、テレビや映画、本や音楽などが気にかかる。評判になったということは、その時代の意識がどこかに反映されていると思うからだ。

たとえば、最近、軽さや笑いが持てはやされている。タモリやさんまなど、どうしてだろう。僕が思うには、等身大で語ることが、あたり前になってきたことを反映しているせいだと思う。等身大ということでは

は、椎名誠もそう。すぐそこにある、身近なものを見る目のあたり前さが魅力になっている。「ウン、ウン、わかるな」という共感を接点として、つながりあっている読者が見える。

西友の無印良品が注目されたのも、商品そのものではなく、商品を創り出すバックボーンにメッセージに対する共感であったのだろう。

○一方で、僕は唄を創って、歌っている。シンガーソングライターってやつだ。最近、感じることは、プロテクトソングが伝わってゆくには、ラブソングとして、

歌われなければならないだろうということ。先の等身大とも関係するが、大上段に構えた唄や、人生教訓的な唄は、まず拒否反応にあう。ラブソングがいいのは、相手を信じなければ、やっぱり歌えない所だね。バカにしたら、歌えないもの。

等身大とラブソング、共に今、気になる言葉。

○小売業は、消費者(最近では生活者と呼ぶ)の生活感覚をつかむこと、唄も、聴き手の共感の中で生きてゆくもの。仕事と唄を同じ位置でつかめたら、それこそ、最高ノと夢みている毎日ですね。やっぱり、終り。

○「何でも屋」です。

「毎度おきに。今日の御用は？」くる日もくる日も軒並みに声をかけてまわる。と言っても魚屋さんでも八百屋さんでもない。工芸土産品の製造卸。社員九名のこく小さな問屋だ。京都の土産品と言っても今やその品種には食器からインテリア・装飾品・文具にいたるまで、とにかく観光客に向けての「何でも屋」と言えるだろう。

○流行に流されずニーズを追う。

わが社の取扱品種だけでも数百点にのぼる。約二百社がしのぎを削るこの業界。常に新製品開発に心血を注ぐことを余儀なくされている。この数年、修学旅行者を標的にしたファンシー商品が土産品店に多く並べられている。

しかしファンシーは寿命が短い。三ヶ月のサイクルで新商品が生れては消えてゆく。

かつてのペンギンブーム、エリマキトカゲ、最近では「しかのふん」爆発的に売れもするが流行が去ると見向きもされない。だが自社で開発した商品で品質も実用性も高いものは意外と長い年月健闘してくれる。

○ガッツとフットワークで。

競争のはげしい業界だが「他社に負けないぞ」というガッツこそがより良い商品を開発、より安く供給する情熱の源泉でもあり、加えて一方では、ダシニング競争や一時の流行に深入りして足をすくわれぬようなフットワークがまた要求されている。

現代社会と私

カナダからの手紙

〈海外セミナー〉に同行して



岡 節三 教授

皆さん、こんにちは。今、私はカナダのバンクーバーにあるアリティツシユ・コロンビア大学にきています。今年から始まった海外セミナーの参加学生に付き添うことと来年度以降のセミナー計画について関係者と協議することとが私の役割です。

この海外セミナーというのは、正しく外国語を補完し、国際的感覚を養う特別講座として実施するもので、四週間の外国語研究と一週間の旅行を内容とし、受講者には「随意外国語」二単位を認定するものです（「学園通信」第四七号）。

実施場所はカナダの二つの大学（プリティツシユ・コロンビア大学およびオカナガン大学）と中国の南開大学の三か所です。たくさんの希望者のなかから各三十人ずつ、合計九十人の学生が選ばれました。

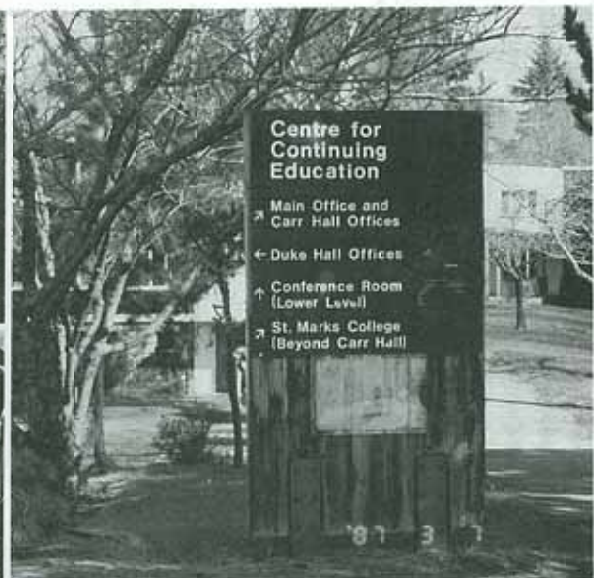
産業社会学部

からも全部で十人が参加しています。バンクーバーに来たのは二月の下旬でしたが、今年は例年になく暖かいとのことで、もう桜(チャイニーズ・プラム)だとも聞きました)が咲き始めており、当初心配していた寒さの点では問題はありませんでした。ホスト・ファミリーの歓迎や世話ぶりはまず申し分なく、どの学生も満足しているようです。大学へは全員がホーム・ステイ先の家からバスで通つてきますが、係留所がわかりにくく車中の案内もないために、学生たちはよくバスを間違えたり乗り越しをしたりして、その度に運転手や乗客になすねなければならすそのこと自体が英会話のよい練習になっています。このことに関連して、車中であれ、キャンパスであれ、町の中であれ、こちらが何かいいたときのカナダの人たちの親切な対応にはたいへん好感がもてます。

フリディッシュ・コロビア大学は
 広大なキャンパスの中にさまざまな施
 設設備を持っていて、地図なしにはな
 かなか目的の場所がわからず、ま
 わかっても非常に長い距離を歩かねば
 ならないので大変です。学生数は三
 千人あまりですが、キャンパスが広く
 人が多いこともあって、ゆったりした
 印象を与えます。国際感覚という点か
 らいえば、バンクーバーはすばらしい
 ところだと思います。私のホスト・フ
 ァミリーを例にとれば、夫はオランダ
 系、妻はフランス系で、私が紹介され
 た近所の人たちだけでも、スコットラ
 ンド系、中国系、インド系、日系、ギ
 リシャ系、イタリア系とさまざまです

学生たちのホスト・ファミリーも名前を見ただけで多様性がわかりますし、彼らが直接接触する大学のスタッフもイギリス系やアメリカ系の他にポーランド系、ロシア系、朝鮮系、西アフリカ系の人々です。また、キャンパスを歩いていると、ありとあらゆる人種の特徴の学生たちを見ることが出来ます。このような人々の中で生活していると、学生たちの持つ人種というもののに対する考え方は大きく変わるものだと思います。また、女性のスタッフが多く、しかも個性的で堂々としているのを見ることも学生たちにはよい人間的勉強になるでしょうし、カナダの学生たちの学習と遊びはけじめがはっきりしており、男女のつきあいがじめじめしていないのも新鮮な印象を与えてでしょう。いちばん大切な英語学習についていえば、なんといてもクラス十五人というクラス・サイズの有

利さは明らかで、ネイティブ・スピーカーの利点を充分に生かした担当者たちの魅力的な教え方、および英語を使わなければ生活できない環境の存在という事実が助けられて、学生たちの英語学力は確実に前進しつつあります。特にヒアリング能力の進歩はめざましく、スピーキングの方も誤りを恐れるに英語を口にするようになったという意味で大きな成果をあげています。以上の点を考えて、この海外セミナーは大成功だったといえるでしょう。そして、今、多くの学生たちが改めて自分たちの内部に英語で語るに値するだけのものを蓄積していたかどうかを反省し始めており、同時にこれまでもは違



右上 海外セミナーのためのセンター
左上 UBC内のニトベ・ガーデン
左下 ケローナ空港にて



った目で日本を見なおそうとしかけて
いることをつけ加えておきたいと思
います。ある意味では、この方がいっ
そう重要な成果であるかもしれません。
なお、私はこの間にバンクーバーか
ら四百キロばかり東にあるケロウナ市

それでは、最後に皆さんの御健康をお祈りして、ペンをおきます。

現代の生活様式を

考へてゐる



山本 賢治
(第4期生・現鹿兒島
経済大学・助教授)

に両者の関係がいつそう家族的であるのが特徴です。しかし、そうした違いはあっても、学生たちはここでもやはり同じような経験をし、同じような気持ちを持っているようでした。

もう間もなく学習期間が終わります。学生たちは修了証書をもらい、そのあと約一週間、スキーで有名なバンフから高原の町カルガリイを経て、再びブリティッシュ・コロンビア州にもどってビクトリアとバンクーバーを訪れ、それから日本へ帰ることになります。学生たちにとって旅行は楽しいものになるでしょう。しかし、せっかく英語の世界での生活になじんできたのに、日本人ばかりの団体旅行の中で英語を忘

豊かさへの不安

昨年からかこしま県民生協の理事をひきうけているが、消費者としての主婦の声をきく機会にめぐまれて、いろいろと考えさせられることがある。主婦の声というと、「亭主元気で留守がよい」などというコピーをイメージしやすいが、現実の主婦は相当にしたたかであり、多分に生活変革的志向をもっているように思われる。鹿児島県というところは元来保守の色彩が強く、「ギをいうな（理屈、異議を述べな）」というような風潮が今も残っているところである。しかし理事会に出席するたびに、主婦理事たちの積極的発言や態度にしばしば驚かされる。私の勤務

主婦の声

生協に結集する主婦たちからよく聞く声は、まず第一に「安全、安心な食品を」という願ひである。今日ほとんどの加工食品にはさまざまな添加物が使われており、自然なままの食品を手に入れることは非常に困難である。野菜には多くの農薬が使われ、養殖ハマチには大量の抗生物質が投与される。そんな時代に子供を育てていかねばならない母親にとって、安全な食品への

主婦の友

個人主義的消費生活様式

現代の生活様式は、超近代的工場によって大量に生産される「商品」の個人主義的消費生活様式として把握される。この生活様式は、ひじょうに「お金のかかる」生活である。所有する生活財はたしかに増えて豊かになるのだが、やたらと経費がかかる。しかもその生活財は、地球の資源と生態系の破壊によって生み出される場合が多い。そして経費の高つく理由は、くく簡単である。公共交通が不便だからマイカーを購入する。良質の公的住宅が不足しているから無理してマイホームを購入する。老後が不安であるから私的

個人主義的消費生活樣式

いか それにくらべて生協に結果する主婦たちの姿には力強さを感じるのである。

最後に、この文では「主婦」という言葉をよく使ったが、進歩的な女性の立場からするとやや抵抗をおぼえる語かもしれない。しかし私は主婦の社会的力量の大きさを評価しているのである。男は社会変革を「国家」のレベルから考えたが、女は「生活」のレベルから考えている。ウーマン・パワーは着実に大きくなってきている。（わが家でもこれはあてはまるのであって、それがこの一文を書く一因になっているかもしれない。ゆめゆめ男性諸兄は御注意）

いうことになる

産業社会学部校友会第2回 定期総会開催される

—産業社会学部校友会として「学園創立
90周年記念事業のとりくみ」を決定する—



総会風景

産業社会学部校友会第2回定期総会が一月二〇日(記念講演・末川記念ホール 演題:大阪、神戸、そして京都・関西三都の文化風土)講師・末川川計産業社会学部教授・総会・中川会館四階大会議室・懇親会)開催された。記念講演は、卒業生、教職員、市民学生、約一〇〇名が参加し、末川川教授の、関西主要三都、大阪、神戸、京都の文化について、エピソードやユーモア、笑いなどをまじえわかりやすく話された。

また、本学卒業生が実社会の各方面で活躍をしているのを目にするにつれて、立命館は、東の「都の西北」に位置する早稲田大学に対し、西の「都の西北」に位置することから、早稲田大学こそが真のライバルである。そのため、校友、大学関係者が力を合わせて大学を発展させることが、今、必要であると話をしめくられた。

第二回定期総会は、谷岡校長からの祝電の紹介のあと、細川校友会副会長

の挨拶、川勝校友会会長からのメッセージに引き続き学部長から挨拶がなされた。参加者は細野先生、山口先生をはじめ、はるばる遠方から参加の校友をまじえ七五名が参加した。

総会では、次回総会実施年度の一年延期の決定(三年後の学部創設二五周年一九八九年に開催、組織体制の確立(事業、編集、組織委員会の設置、積立金制度の導入、学園創立九〇周年記念事業のとりくみ)などを確認するとともに、新役員を選出しておわった。ひきつづき、懇親会が開催され、クイズ、抽選など、卒業生、来賓、教職員、在校生が参加し、なごやかな歓談のなかで楽しいひとときをおえることができた。

新役員選出

会長 荒岡作之
副会長 都島正喜 奥田真澄 祝迫一
会計 石川聡子 川口潔
監査 細本敏 湊川哲

学園創立90周年 記念事業募金の協力方お願い

学園では現在、「学園創立90周年記念事業のとりくみ」をすすめています。が、産社校友会としても、この取り組みに積極的に参加することを総会で決定しました。

一万名をこえる産社校友の皆様にはすでに、年末に事務局より「募金趣意書」「立命館」のう・き・よう・あす「学園マップ」の三点セットを送付いたしておりますが、あらためて学園の事業計画へのご理解と、募金活動にたいするご支援方よろしくお願いいたします。なお、記念事業計画の概要を紹介いたします。学園基本計画(昭61、昭66年)にもとづく総事業費は、約一七五億円とありますが、この内の五〇億円相当の事業を記念事業としました。

①記念館の建設四三億円・新学部棟(国際関係学部・理工学部新棟・中学校、高等学校記念ホール) ②記念出版「一億円」「西園寺公望伝」の刊行・学園史料集の刊行など ③基金の設定五・五億円・国際交流基金・学術研究助成基金・スポーツ振興基金 ④記念行事〇・五億円となっております。続きまして、募金要領について、ご案内させていただきます。

①募金目標額三・五億円 ②寄付金の種類(1)法人を対象としてお願いするもの(1)口数によらずご協力をお願いいたします(2)個人を対象としてお願いするもの(1)口3万円とさせていただきます。なるべく3万円以上のご協力をお願いいたします。一口未満のご寄付もお受けさせていただきます。



新学部棟完成予想図

人事短信

年記念事業会事務局、〒603 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学内(075) 464-1552(直通)

一九八六年度をもって次の先生が退職され、新たに今年度3名の先生を迎えることになりました。

退職 古川勝弘(定年)、吉原直樹
新任 赤井正二、松原美恵、
新任 鹿又伸夫(後期より専任)
敬称略

入会のお知らせ

会則第三条(事業)をより豊かにいたしますためには財源が必要で、この主旨を十分ご理解の上、積極的に入会していただくことを心よりお願いいたします。

終身会費 三千円

入会される方は同封の「振込通知票」に必要事項をご記入の上「送金下さい」なお既に送金済の方は不要です。

校友会での現住所不明者

現住所をご存知の方があればお知らせ下さい。

久保 秀夫(昭44卒)
阿部 秀一(昭46卒)
佐伯 一郎(昭46卒)
小池 信久(昭47卒)
小川 正和(昭48卒)
江頭 守(昭49卒)
宇賀治良子(昭50卒)
井上 秋広(昭51卒)
加賀谷保自(昭53卒)
木寺 昭博(昭53卒)